

引.
山鹿 延, 1974: 昭和47年7月4日～6日における
熊本県の大雨, 天気, 21, 298-306.

柳沢善次, 1961: レーダより求めた雷雨発生分布,
天気, 18, 185-192.



坪井八十二 根本順吉編

異常気象と農業

朝倉書店, 1976, A 5判, 211頁, 2,500円

近年の異常気象の頻発は気候変動によるものであり、今後の気候悪化が心配されている。農業技術が進歩し、冷害なども克服できるようになったとも言われるが、どうであろうか。本書によれば、明治の末から大正の始めに起きたような冷夏がまた現われれば、相当の減収になるらしい。予報というものは難しいもので、現在問題になっている気候悪化が杞憂であればよいが、楽観はできない。本書はこのような事態にそなえて書かれたものである。

この種の本は近年多く出版されているが、一般読者を対象とした啓蒙的なものが多い。本書は農業技術者・気象技術者・研究者などを対象とした教科書的・専門書的な本である。これは、執筆者の顔ぶれ、気象・農業の専

門家である根本順吉、坪井八十二、久保木光照、関根勇八、中川行夫であることからみてもわかるであろう。

序論では、地球の寒冷化と異常気象、農業と気象災害に関する総括的なことが書かれており、異常気象の定義にもふれている。本論は2部に分かれ、I部は冷害、II部は干害について、それぞれの定義、気象学的指標、その歴史、生態、生理、気象との関係、時間・空間的スケール、予想法、対策などについて述べているので、実務家・一般農業経営者にもよい参考になるだろう。

異常気象と農業と言っても、その内容は非常に広いが、本書で取扱っているのは、農業生産技術に関連したことが中心である。また、日本の米作が中心となっており、干害では他の若干の作物についてもふれている。

この本の特色の1つは、多くの参考文献とともに、豊富な資料が巻末に付録として載せられていることである。10アール当たりの水稲収量、夏期気温、日照時間の経年変化のグラフ、日平均気温、積算温度、半旬ごとの降水量、日照時間などの気候表、冷害および干害の歴史年表、また索引も付いており、利用者には有用で、便利であろう。

(高橋浩一郎)

気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
関西支部昭和51年度第3回例会 (しぐれについて)	昭和52年3月17日 (13時～)	日本気象学会関西支部	舞鶴海洋気象台
昭和52年度 日本気象学会春季大会	昭和52年5月24日～26日	日本気象学会	気象庁